

平成28年度 有田町立有田中部小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
有田を愛し、夢や希望を持って、明るく元気に生きる児童を育成する。	教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。 児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。 望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む



3 目標・評価				
教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	教職員の資質向上	・校内研究の推進	・授業実践を通しての校内研究を重ね、指導技術の向上を図る。	・事前・事後の研究も含め授業研究会に主体的に参加し、「分かる授業」づくりの研究を深める。
		・教師の授業力向上	・児童アンケートで、「授業が分かる」の指標を85%以上、「保護者アンケートで「授業を工夫している」の指標を80%以上にする。	・日々の授業実践を重視するとともに、自らの授業を客観的に振り返る機会を設け、指導技術の向上を図る。 ・研究会、講座等に積極的に参加するとともに、研修報告等を行い、全体の資質の向上に努める。
教育活動	学力の向上	・個に応じた指導の充実による基礎学力の向上	・学力検査で、前年度から標準化得点が向上した児童の割合を増やす。 ・12月県調査では、学校平均を全体平均と同等またはそれ以上とする。	・朝のドリルタイムの在り方を内容面・方法面で改善し、国・算の基礎的内容の定着を図る。 ・算数科を中心にして「学び合い」を取り入れ、既習事項を効果的に習得・活用させ、思考力・表現力を向上させていく。 ・TT担当以外の職員の活用を工夫し、理解に時間のかかる子や配慮を要する児童の支援を組織的に行っていく。
		・「分かる授業」「楽しい授業」づくりの推進	・電子黒板やデジタル教科書の活用を工夫し、学力向上に結び付ける。 ・児童の情報発信の技能を高める。	・情報教育推進リーダーやICT支援員を中心に、年3回以上研修会を実施し、学力向上に結び付くような新しい活用法を蓄積する。 ・発表会等で情報発信させるために、情報モラルに気を付けさせながら、プレゼンテーションソフト等の活用スキルを身に付けさせていく。
学校運営	開かれた学校づくり	・地域と連携した体験活動の推進	・地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。	・教育活動に地域人材を活用し、地域のよさを体感させる。 ・体験活動で得た知識・技能を他の場面でも活用する手立てをとる。
		・積極的な情報発信	・保護者アンケートで「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の指標を80%以上にする。	・学校便り、学校メール、ホームページ、各種会合等の機会をとらえ、情報発信の機会を増やす。
児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	心の教育	・いのちの教育、人権教育の充実	・児童アンケート「学校が楽しいですか」で、「とてもそう思う」の割合を75%以上とする。 ・保護者アンケート「お子さんは、「学校が楽しい」と感じていると思いますか。」で、「とてもそう思う」の割合を50%以上とする。	・学級での人間関係を深める活動を計画的に仕組み、一人一人のよさが感じられる活動ができるようにする。 ・「いのち」「平和」をテーマに全校集会を実施し、各学年・学級の取組につなげる。 ・「ふれあい道徳」、各種便り等で、心の教育に関する取組を紹介し、保護者、地域への啓発を図る。 ・人権意識を高め、人権教育の充実につなげるための職員研修を実施する。
		・規律ある学校生活の確立	・学校のまきまりや社会のルールを守るようにする。特に、本年度は安全な廊下歩行を励行させる。	・廊下歩行、トイレのスリッパ並べ、無言掃除など具体的行動目標を示し、全職員で共通理解をして、臨場指導を行う。
	生徒指導・教育相談	・教育相談の充実	・児童アンケートで、「悩みがあったとき、相談する友だちや先生がいる」の指標を90%以上にする。	・児童や保護者が気軽に相談できるよう、お便り等での情報発信を増やす。 ・相談を受ける児童についての共通理解を図り、多くの職員等が関わりを持っていけるようにしていく。 ・相談担当者が担任との情報交換や校内巡視の機会を増やして、児童理解に努める。
		・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	・保護者アンケート「学校は、子どもや保護者の相談に適切に対応しているか」で、「とてもそう思う」の割合を30%以上とする。	・いじめに関するアンケート、教育相談週間を実施し、状況把握を適宜行っていく。 ・いじめの問題、人間関係での悩み等の相談受付について、積極的に情報発信していく。
特別支援教育	・校内支援体制の充実	・児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導及び支援に努める。	・5月と2月にアンケートを実施するとともに、検査や参観等で支援を必要としている児童を把握する。 ・個別の支援計画及び指導計画の作成並びに活用を進める。	
望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	健康・体づくり	・児童の体力向上 ・健康な体づくりへの意識の向上	・体育的行事に「進んで楽しく参加している」児童の割合を増やす。 ・健康に関心を持ち、食についての理解を深める。 ・児童アンケートで、「手洗い、うがい、歯磨きがきちんとできる」の指標を90%以上にする。	・持久走やなわとび月間等を設定するとともに、「外遊び」を励行し、楽しく体を動かす機会を増やす。 ・養護教諭、栄養教諭を中心に健康教育、食育を進める。また、給食試食会を通して、保護者への啓発を行う。 ・日々の呼び掛けをこまめに行い、習慣化を図る。
		・低学年の学習環境の改善・充実	・「人の話を聞く」「あいさつ・返事をきちんとする」「学習用具をそろえる」の定着を図る。	・日々の生活の中で、「生活のめあて」として具体的に取り上げながら、継続して指導していく。 ・有田っ子スタイルを活用して、共通指導をする。

は共通評価項目、 は独自評価項目